

## 三田 SandA 宣言

関学神戸三田キャンパスのイベントによろこそ！

リサーチ・コンソーシアムは大学院（総合政策研究科）と産業界との連携組織で、さまざまな課題に取り組んできました。最重要ともいえるテーマが「三田の活性化」であり、今回のイベントでも前面に掲げました。

「SandA」は単なる言葉の遊びではありません。大真面目に議論した結果でもあるのです。

S はサイエンス、A はアーツ（人文科学）の頭文字で、いわば、文理のあらゆる知の融合による地域活性化をこの三田で実現しようという試みを表現しているのです。

我々が生きているのはどういう時代であり、直面する課題にどう取り組めばよいのでしょうか。そう考えたとき、決して避けて通れないのが少子高齢化の問題です。ご存知の方も多いと思いますが、三田市は 20 年ほど前、人口増加率で全国トップでした。移り住んだ人たちは当然ながら年を取り、この地域は高齢化でも、各地域に先行することになりました。

一口に高齢化といっても地域にはいろいろな違いがあります。では、三田市の特色は何でしょうか。実はこの地域には、元気でやる気十分で何より高度な技術を持った人が多いのです。いわば「高度高齢人材」です。家庭には「高度女性人材」も多いことでしょう。

本日の基調講演者、金子忠昭教授は関学、そして日本が誇る物理学者です。先生を中心に三田キャンパスの教職員や院生・学生は、このような高度人材と大学の技術を結びつけることで地域の活性化を目指そうと議論を重ねてきました。今回のイベントはその成果を広く世に問う試みです。先に理工学部が開催した「地域創生イベント」と合わせれば、今年まさに本学における「融合のイノベーション」元年というべきでしょう。三田を SandA と表現するのも、そうした融合を分かりやすく示そうとしたからで、「宣言」という言葉でこの挑戦にかかわるすべての人々の思いを表したつもりです。

融合とは地域と大学、大学の文系と理系、産業と学界、グローバルとローカル、さまざまな意味における「掛け合わせによる創造」を意味しています。足し算より掛け算のほうが合計値の大きくなることは言うまでもありません。

地域活性化のモデルを三田で作ることができれば、それを全国各地に、そして世界に広げることできる——我々はそう確信しています。この「三田 SandA 宣言」に賛同いただける皆さん、ぜひ一緒に行動を起こそうではありませんか。